

やってみよう！

幼小連携

自立する子を育成する
『遊びと学び合い』



認定こども園 ふたば
丹波市立 中央小学校

意欲・興味・関心を高める環境づくり

こども園

遊びを選択できる環境をつくる

子どもが興味関心に従って遊びを選べる環境（木の実や葉などの自然物、トレー、カップなどの設置）を作ってこそ主体的な遊びにつながります。そこで何を学ばせるか意図を持って環境を作ったり、助言をしたり、見守ったりしましょう。



興味関心を掻き立てる

子どもの興味関心は、外部からの刺激によって高められます。本物を見たり、経験したり、写真を見たりすることが必要です。また、個々の遊びをクラス内に紹介し広めることで、子どもたちにブームを起こしましょう。

低学年

視覚支援で「見て分かる」環境をつくる

授業の流れ、単元のゴール、教師の見本や具体物等を提示することによって活動のイメージを持たせ、導入で「やってみよう」という気持ちを芽生えさせます。課題を達成できた際に、頑張りを見える化できるといいですね。



選択肢の広い課題を設定する

「〇〇図鑑をつくろう」「〇〇ランドを開こう」等、多様な考えを引き出せる課題を設定し、自分で選んだことをやり遂げられる環境を整えます。「できた」という成功体験から、次への学習意欲を育てましょう。

高学年

学びたい気持ちを実現できる教室にする

「学びたいときに学べる環境」をめざし、自主学习プリントや書籍、関連資料、ICT機器等をいつでも活用できるように整えましょう。



主体的に活動できる場を広げる

主体的な活動にしていくためには、子どもの意見を尊重しながら、教師は助言、サポートする授業をめざしましょう。また、教科学習に限らず、学級活動、委員会活動等において、経験を活かし自分たちで主体的に計画実行していくことで、達成感を味わい、次の課題への意欲・興味・関心につながります。

安心感・居場所のある学び場づくり

こども園

笑顔であいさつをする

毎日、元気に登園し、大きな声であいさつができる子を育てるためには、園生活が楽しい場所でないといけません。「友だちと遊びたい！」「先生に会いたい！」「今日はこんな遊びがしたい！」毎日の登園がワクワクするこども園になるために、子どもたちには笑顔で語りかけましょう。



保育者の温かい眼差し

保育者は、子ども一人ひとりの良さを認め、そして気持ちに寄り添い、温かい眼差しを持って見守ることが大切です。保育者が見てくれているという安心感を持った子は、困難な事に対しても勇気を持ってやり続けることができます。自己表現が苦手な子には、思っていることを代弁してあげましょう。

低学年

「まちがい」「分からない」を大切に

まちがいや他者との違いに寛大な学級の素地がなければ、学び合いは成立しません。「失敗があっても当たり前」「まちがいは考える宝物」。そういった声をかけながら、安心して学習し、みんなで伸びていこうとする学級の雰囲気をつくっていきましょう。



友だちの考えを大切に聴かせる

上手な「聴き方」とはということかを、具体的に児童に提示します。最後まで聴く、静かに聴く、目をつないで聴く、反応しなから聴く（うなずく、首をかしげる、「はい」と返事をする、「同じです」「分かりました」などの言葉を返す、メモをとる）等、どの子にも分かりやすい姿を示しましょう。

高学年

「分からない」をつなぐに活かす

「分からない」をきっかけに、友だちとつながり、「分かる喜び」や「できた達成感」を共有でき、その関係が教え合い、助け合いにつながっていきます。



個々の良さを活かす

人と話すことによって他者理解が深まります。授業以外の活動でも、いろいろな機会に自分の思いや考えを伝え合うことで、児童相互の理解が深まり、人との違いを認め合いながら、安心して学級内外で過ごすことができるようになります。

課題発見・解決の力の育成

こども園

自己決定をさせる

遊びの中で不思議に思ったことや興味を持ったことなどを「やってみよう」「つくってみよう」と自己決定をさせることが大切です。子どもに選択権や決定権を与えると自分で考えようと前向きになります。その姿を励ましたり褒めたりして頑張る姿を認めましょう。

活動の振り返りをさせる

1日の活動を振り返り、楽しかったことや、次にやってみたいこととお話しさせることが、次の活動への動機づけとなります。振り返りの中で新たな課題が出た場合は、翌日から子どもたち同士で解決させれば良いでしょう。



低学年

いろいろな体験をさせる

様々な課題を発見するためには、身の回りの事象に対して興味関心を抱き、疑問を持たなければいけません。いろいろなことを体験する中で「おもしろい」という気づきから「なぜだろう」、「どうしてだろう」といった疑問は生まれます。体験を通して課題発見の素地を養っていきましょう。

課題解決の経験を積ませる

様々な自己解決の方法や自分の得意、不得意を知り、経験値として蓄えていくことで自己解決をあきらめない粘り強さを育み、自分の得意なことで活躍する経験を積みませましょう。この経験が高学年での課題解決の際に、自分の得意な方法を選択する力につながっていきます。



高学年

自分で課題を設定・解決させる

低学年での経験をもとに、疑問に思ったことから課題を自ら設定させましょう。その課題に対して自分が知っている解決方法を組み合わせたり、自分が得意な解決方法を選択・創造したりして解決に向かわせます。

生活面の課題解決に目を向けさせる

学習面における課題解決だけではなく、生活面における課題についても解決する方法を知ったり、自己の気持ちをうまくコントロールしたりできる力を育てましょう。



つながる力の育成

こども園

遊び込ませる

好きなこと、楽しいことに夢中になって遊ぶことで様々なことを学び、集中力が育ちます。また、遊び込むことでマイブームが起き、意欲的に取り組むようになります。その力が小学校で仲間とつながる基盤となります。



集団遊びのおもしろさを感じさせる

共通の目的に向かって協力したり、工夫したりして集団で遊ぶおもしろさを感じられるようにしましょう。また、ゴールを定めることで達成感や充実感を存分に味わわせましょう。できたことを認めたり、褒めたりすることで、自信を持って行動するようになります。

低学年

対話の機会を増やす

いろいろな場面で対話形式（ペアトーク、グループトークなど）を積極的に取り入れましょう。対話によって、自分の考えを整理したり、確かめたりすることができます。友だちの考えを聴いて、自分の考えを深めたり広げたりすることもできます。



子ども同士で話し合わせる

授業や学級活動で、子どもが主体となって教え合ったり、司会を立てたりする場を設定しましょう。そこで、一人ひとりが考えを伝える必要性を感じさせたり、友だちの意見の良さを見つけさせたりすることが大切です。

高学年

様々な交流の仕方を教える

友だちの意見と比べたり関連付けをしたりすることで、新しい考えに気づき、自分の考えを深めることができます。ワールドカフェやジグソー法等、様々な交流方法を設定しましょう。また、友だちの考えの変化に気づくことで、お互いの伸びを認め合うことにつながります。



自分たちの生活をつくる意識を持たせる

行事や全校イベントの企画、運営、クラブ活動等で、どんな活動をしたいか、どんな学校をつくりあげたいかを自分たちで考え、解決させます。その際、教師は子どもたちの活動を制限するのではなく、実現に向けて助言したり一緒に考えたりして、子ども同士のつながる力を育てていきましょう。

子どもの姿から学ぶ 職員研修

子どもたちの行動は、動機や感情、考えがもとになっています。私たちは、そうした子どもたちの姿、行動から、子どもたちが何を考え、何を求めているのかを読み取るなど、子どもたちから学ぶことを何より大切にしなければなりません。本園、本校が行っている研修方法を紹介します。

こども園

エピソード記録をとる

- ①園全体でテーマを決めます。
- ②記録者が、対象とする園児を決めます。
- ③保育場面と保育者の関わりとともに、園児の行動、言葉、仕草、視線等をシートに書き込みます。
- ④園児の思いを感じ取り、行動欄の横に吹き出しで記入します。また、保育者の意図も同様に書きます。（思いは実線、意図は点線にするとよいでしょう）。



記録をもとに話し合う

- ①学年ごとに午睡時間を活用し、エピソード記録をもとに、園児は何を考えているか、何を学んでいるか、どういうことがうかがえるかについて話し合います。
- ②実際に行った環境設定や援助を振り返り、これらは有効であったのかを話し合います。また、教育・保育要領で学びを確認します。
- ③話し合った内容をノートにまとめ、学年で共有します。

小学校

児童の様子を“みとる”

- ①研究授業で、参観者はグループに分かれて、事前に“みとる”を行う児童2、3名を分担します。
- ②児童の反応や教師の働きかけを観察し、経過時間、児童の行動、言葉、仕草等の様子を授業記録用紙に書き込みます。
- ③児童が周囲とどう関わったか、どこを見て話を聴いているか、どの言葉で行動したか、どんな反応をしたのか、何をつぶやいたかなど、細かく記録します。

“みとり”記録をもとに話し合う

- ①事後研修会で、“みとり”を行った児童のグループに分かれ、時系列に沿って、児童の反応や教師の働きかけを出し合い、模造紙に整理します。
- ②教師の働きかけや友だちとの関わりがどのように影響したのか、より効果的な学びになるためにはどのような改善点があるのかを、グループで話し合います。
- ③グループで話し合ったことを全体で交流します。予想と反する児童の戸惑いやつまずきなどについても分析します。
- ④全体交流の中から、明日からの授業で活かしたいことを各自が一つ決め、短冊に書いて職員室に掲示します。